

佐藤ゼミ 刑法討論会2016 決勝大会 事例問題

<参加チーム> 2回生予選1・2位チーム 3回生予選1・2位チーム  
4回生選抜チーム 合計5チーム

各チーム 立論9分以内(レジュメA3サイズ1枚、スライド10枚以内)  
作戦タイム1分間 質疑8分間

審査員 本学法学部OB弁護士、ゼミOB・OG

傍聴者の「ベストチーム」投票の結果も審査に反映されます。

事例問題

ギャンブル好きでサラ金の借金返済に追われていたXは、2015年12月17日の午後、神戸市内の駐車場で自動車窃盗を企図し、駐車中のSの自動車のカギがかかっていたので、車内に置かれていたバッグに財布が入っているのを確認してこれを持ち出した。残念ながら現金は入っていなかったが、この財布に入っていた「こうべ銀行」のキャッシュカードとバッグの中から見つかった4桁の数字が記されたメモを用いて、同銀行三宮支店のATMで現金を引き出そうと考え、カードを挿入したところ、このカードはすでに無効なものであったためにATMに回収されてしまった。

気持ちが収まらないXは、財布に入っていたJSBカード(クレジットカード)を利用して豪華なディナーを楽しもうと考え、ホテルのレストランでフルコースの料理と高級ワインを飲み食いし、レジでSに成りすましてJSBカードを提示してサインしたところ、うまく飲食代金22,350円の支払いを済ませることができた。

どうしても現金を手に入れたいXは、12月20日の夜に三宮の行きつけの立ち飲み屋に行ったところ、ギャンブル仲間のYに出会ったので、サラ金の返済に追われていて困っている、何かいい方法はないかと相談したところ、Yから「芦屋の資産家老人Pが自宅に現金を貯め込んでいるらしい。オレが困ったらPの家に忍び込んで現金をいただくな」と言われた。これはいい情報を得たと思ったXは、さっそくPの自宅を調べ、翌日の深夜2時ごろにP宅の勝手口のカギを壊して侵入し、リビングのサイドボードの中を物色していたところ、寝室で寝ていたPが物音に気付いて起きてきて、「泥棒!泥棒!」と騒いだので、ここでつかまったら大変だ、一気にやっしまおうと思い、護身用に持っていたナイフでPの胸のあたりをひと突きしたため、Pは血を流して倒れてしまった。Pが動かなくなったのを確認したXは、寝室のタンスから現金150万円の入った封筒を見つけ、これをコートのポケットに押し込んだ。P宅から逃走する際、XはPがまったく動かないので死んでしまったと思い込み、犯行を隠すために火事を装おうと考え、リビングにあった石油ファンヒーターの灯油を部屋にまいてライターで火をつけて逃走した。この結果、P宅はほぼ全焼し、重傷を負って意識を失っていたPは焼死してしまった。

この事例におけるXおよびYの刑事責任を論じなさい。